



7209 神戸市北野町山本通伝建地区における住民の生活拠点と居場所の特性に関する一考察(地域交流と多文化共生, 都市計画)

竹田, 和樹
山崎, 寿一

(Citation)

学術講演梗概集. F-1, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 2011:455-456

(Issue Date)

2011-07-20

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003064>



神戸市北野町山本通伝建地区における住民の生活拠点と居場所の特性に関する一考察

正会員 ○ 竹田 和樹*
同 山崎 寿一**

まちの居場所 生活行動 観光と居住

1-1 研究の背景・目的

近年、コミュニティカフェや街角広場といった「まち居場所」と言われる場所が注目されている。

北野町山本通地区に関する研究には安田らの研究において北野地区における景観まちづくりへの住民の関わりについて考察しているが、対象地区の居場所や住居の特徴について考察しているものはない。

本研究では建物用途や住居と店舗の混在の仕方と生活行動に関するヒアリングから観光地において住民がどのように生活を展開しているかを見る。また街の中の広場や道といった場所の利用実態を調査することで、その場所が住民にとってどのような役割となっているかを明らかにする。

1-2 地区の概要

北野・山本通地区「異人館のある街」として年間160万人が訪れる(平成20年)神戸有数の観光スポットとなっている。一方で三ノ宮中心部に近く利便性の高い街として居住者も多い地区となっている。

1-3 調査の概要

伝建地区は北野町1～4丁目、山本通2～3丁目に含まれている。観光化されている範囲として伝建地区内と都市景観形成地域内の大きな通り沿い(山麓線、山本通り、北野坂、ハンター坂、天神坂、トーマス坂、オランダ坂)を調査範囲とした。

2. 地区における生活の特徴

2-1 1, 2階用途から見た地区の特徴

1, 2階の用途を調べることで住居と店舗の混在の仕方の特徴を明らかにする。(北野町1丁目=K1、山本通1丁目=Y1)

表2-1 町別1, 2階用途

	総数	1階	2階	異人館
K1	11	1	1	1
K2	111	40	38	13
K3	101	33	13	3
K4	62	15	8	1
Y1	12	1	0	0
Y2	26	18	9	0

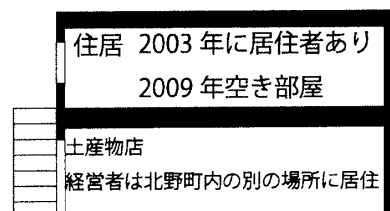


図2-1 店舗と住居の混在の一例

表2-1から北野町2丁目は公開異人館や異人館を店舗にしている事例が多く、2階部分も店舗等となっている割合が高い。北野町3丁目では1階は店舗であるが2階を住居としているものが20軒と多いことが分かる。観光化前からの居住者であり「北野・山本地区をまもりそでてる会」の副会長であるT氏へのヒアリングから、トーマス坂沿いの街区の1, 2階の所有関係を伺うと図2-1のように1階は店舗にされ、観光化当初から続いている店だが、2階部分は数年ごとに居住者が変わる、といった事例が多い事が分かった。

2-2 居住年数からみた地区の特徴

住宅地図を見ると北野町2丁目では40年以上(1968～2009年)居住している住宅が12軒、20年以上(1988～2009年)が27軒と新しく入れ替わる住民が多い一方で長年住んでいる住民も多く、居住地としての側面も強いことが分かった。

また20年間で半数以上が入れ替わっている集合住宅も12軒あった。また図2-2を見ると大きな通り沿いには店舗併用住宅が多い一方、異人館から離れた場所では専用住宅や集合住宅も多く、居住地としての側面も強いと言える。

2-3 居住者の都市的な生活行動

居住年数の浅い住民7名(A1～A5:居住年数1年～9年、B1、B2:居住年数15年、喫茶店経営)に生活行動についてヒアリングを行った結果、日常の行動の中で見られる異人館や山、路地などの北野町特有のものが居心地がよいと思える要因となっていることが分かった。また観光化に対しても間接的に見ることや聞かせることの楽しさから居心地がよいと感じているという意見もあった。

北野町以外で働いている住民が北野町で生活する時間と異人館の開館時間は重なる部分もあるが多くは重ならない。(図3-3)

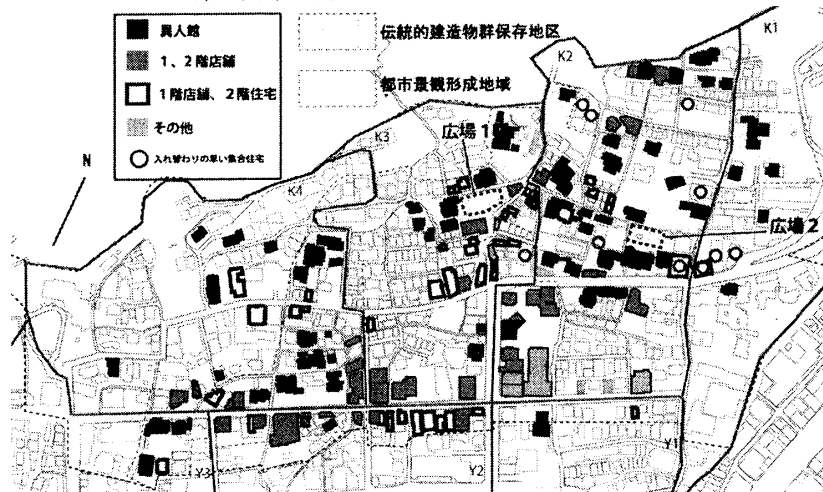


図2-2 対象地区の用途図

Study on the special quality of the base place of life and comfortable place
in Kitano-Yamamotodori Preservation District, Kobe

TAKEDA Kazuki and YAMAZAKI Juich

3. 街の利用実態から見た居場所の形成

3-1 広場の使われ方

実際にどのように広場や道が使われているかを見ることでどのように住民の居場所となっているかを考察した。

広場について30分ずつの利用人数と行為についてまとめた。(表3-1)(1. 9:00~10:30, 2. 11:00~13:30, 3. 14:00~15:30, 4. 16:30~18:00の間の30分)

広場1は図にあるように風見鶏の館、萌黄の館に面した広場であり、観光客が最も集まる場所と言える。休日にはショーや似顔絵描きが行われる。広場2は観光客が少ない道に面し、異人館は屋根が見える程度だが眺望は良い。

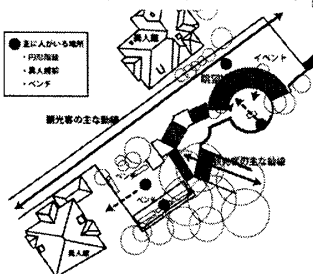


図3-1 広場1

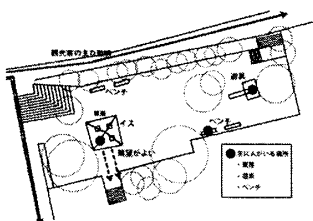


図3-2 広場2

行為: 地図を見る、写真撮影
休日にはイベント、似顔絵描きなどが行われ、休日や平日の昼の時間には観光客が多いが、平日などにも夕方になると犬の散歩をする人や学校帰りの小学生が見られ、時間によって利用人数が変化する。

行為: 散歩途中の休憩、体操、遊戯など多様

広場1に比べ全体として利用者が少ないが、昼間でも観光客の利用が少ないため、子供の遊び場となったり、住民が散歩途中に休憩する場所となったりと、朝、夕方と昼、休日平日での変化は少ない。

広場1は観光客が多いが、時間によって観光目的以外の利用も見られ、(煙草を吸う、散歩中にイベントを眺める等)それは観光客の少ない朝や夕方に多かった。

住民の生活時間(平日)

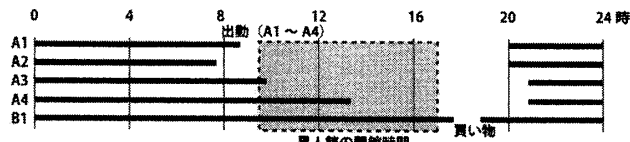
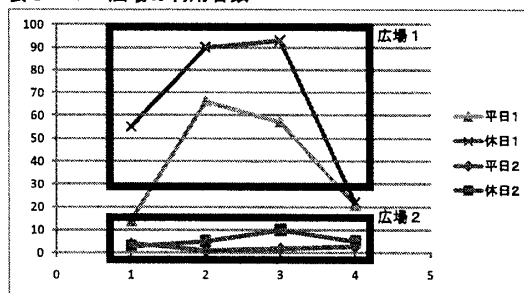


図3-3 北野町内での生活と観光客の多い時間

表3-1 広場の利用人数



3-2 その他に道で見られたこと

休日の昼などの観光客の多い時間帯でも細い路地では住民同士のたまりやあいさつを交わす姿、植木の手入れをする姿などが見られ、朝や夕方になると犬の散歩をする人や学校、会社帰りの住民と思われる人が増えている。また、異人館の絵を描くという行為も見られ、住民でも観光客でもない人にとっても居場所となっている。またそれを眺める住民、観光客もあり、異人館が間接的な要因となって居場所がつくられていると言える。

4. 対象地区における居場所の特性について

対象地区における居住地としての側面を用途図や生活行動から明らかにした。また北野町においては、

- ①観光化されている一方で店舗の2階やワンルームマンションでは都心的な生活が展開されるなど、空間的な住み分けがされている
- ②昼間は観光客が多い一方、朝や夕方などは広場や道は住民が使う街となるという時間的な使われ方の違いがある
- ③観光客がいる時間帯では図4-2のように異人館や絵を描く人、眺望といった街の要素から間接的に居場所を獲得しているということが分かった。



図4-1 異人館の奥の集合住宅

図4-2 北野通で絵を描く人

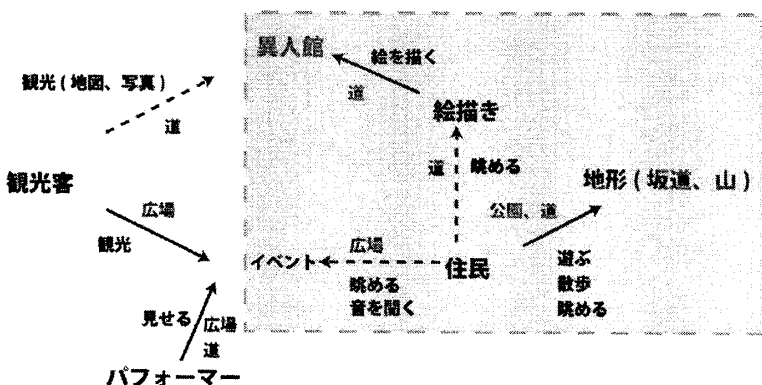


図4-3 北野地区における住民の居場所の形成

引用・参考文献

- * まちの居場所 日本建築学会編 東洋書店 2010.11
異人館のある町並み 北野・山本 神戸市教育委員会 2000.3
- 1 人間にとって都市とは何か 磯村英一 NHKブックス 1968
 - 2 The Good place Ray Oldenburg
 - 3 都市の魅力アップ 鳴海邦碩編著 学芸出版社 2008
 - 4 住民参加型景観まちづくりの形成過程とその評価に関する研究 安田丑作 日本建築学会近畿支部研究報告集 2001年
 - 5 公開異人館として入館料をとっている異人館とレストランやカフェなど異人館を改装したものがある 謝辞
- 本研究を進めるにあたりヒアリング調査にご協力いただいた北野町の住民の方々、ヒアリング調査の対象を紹介していただいた野崎さんに厚くお礼申し上げます。

* 神戸大学大学院 修士課程

** 神戸大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)

*Graduate University of Kobe

**Prof.,Dept. of Architecture,Graduate

School of Engineering,Kobe Univ.,Dr. Eng.